

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度前からグループホームの必要性を認識し設置。入居者が主体となれることが出来、個人の尊厳が保たれ、地域と共に生きていけるようにと理念をつくった。		理念を基に、毎年努力目標・実施細目等作成し、目標達成に向け取り組みを行っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	つくしの里の三本柱の理念を基に、毎年努力目標・実施細目を作成し、目標達成に向け日々取り組んでいる。		毎月の職員会議等で目標達成にむけての状況報告をし、現状把握、次段階へとつなげている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や毎月のお便り送付時等、折に触れ伝えられている。又、地域の方々にも行事参加させていただいたり、回覧板をまわしていただいたりし、事業所の実践を伝えるようにしている。	○	
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の民生委員の方やボランティアの方が遊びに来てくれたり、すぐそばの小学校と交流を図ったりしている。又、夏祭りや文化祭のバザー等の開催時に近所の方にも参加してもらっている。	○	徐々にではあるが、地域の方々とも交流の機会が増えてきているので、今後もつくしの里への理解を得られるよう、交流の機会を継続していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の外部評価で調査員の方に、回覧板などをまわしてもらってもいいのでは…とアドバイスを受け、民生委員の方にお問い合わせしたら快く受け入れていただき、地域行事等に参加する機会が以前より増えた。	○	市の一斉清掃の参加の他、可能な限り地域行事にどんどん参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	視察・見学・電話相談等、積極的に受け入れたり、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。又、所長が研修会等の講師とし参画している。	○	今後は地域の高齢者等に何か還元できることがないか、話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、サービスの質の向上に努めている。評価結果は職員会議で報告し、改善に向けての具体的な取り組み内容を検討している。		評価とは、日々の我々のケアに対する振り返りととらえ、後退することのないよう、常に向上心を持つようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中でサービス評価の重要性・必要性を説明し、助言や意見等を出していただいている。		運営推進会議の中で、サービス評価結果を踏まえ、民生委員の方に回覧板等まわしてもらえよう取り計らってもらった。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中で市町村担当者に協力をあおぎ、機会をつくれるようにしている他、グループホームの定例会等にも参加してもらう機会を設けている。	○	ブロック定例会の際に、医療連携体制加算についての詳しい説明の場を設け、市の方に参加していただいた。今後も何かあれば対応していただけるよう連携体制を築きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会等開催し勉強する機会を設けている。現在は成年後見が必要なケースはないが、今後制度の活用もあり得るので、スタッフ間で理解を深めたい。	○	同法人のグループホームで市より担当の方を招き勉強会が行われ参加してきた。実際に制度活用の際は各関係機関とも連絡調整を図っていけるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所長より職員会議等で高齢者虐待防止関連法についての説明あり、指導等受けている。	○	虐待の種類、内容等を把握し、スタッフ間で注意を払うようにしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項等含めて、十分な説明を行い、利用者や家族の同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでの介護相談員を派遣してもらっていたが、去年は数回しか来られなかったため、今年は定期的に来ていただければと思っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の行事予定表送付時に1ヶ月の本人の様子等をお知らせしている。金銭管理については、出納帳のコピーを同封し、預かり金の詳細を明らかにするようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	オンブズマン制度を導入し、苦情の解決を図っている。又、苦情相談に対しては入居者・家族の立場に立って、納得していただけるよう速やかに対応している。	○ 家族会の発足等希望があればすすめていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議をはじめ、普段の話し合いの中でも現場の意向を取り入れた上で判断してくれている。	○ 意見や提案等、意見交換しやすい雰囲気づくりも必要
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態の変化に応じてスタッフ間で話し合いをもち、対応が図れるようにしている。	スタッフの急病や急な休みのときに応援してくれる人も確保できている。バックアップ機関として併設施設もあるので、協力体制は確保できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって不安や混乱が最小限にとどめられるようスタッフ間でフォローしあっている。法人内にも定期的な異動は設けておらず、可能な限りはなじみのスタッフで対応できる体制となっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時研修・フォローアップ研修等スタッフがそれぞれ段階を踏んだ研修をうける機会を設けている。又、所長より指導・助言等いただき、資料や文献の提供もしてもらっているので心強い。</p>	<p>○</p> <p>今後も内外問わず研修に参加していき、スタッフ各人が向上心もち働いていければと思う。又、OJT等にも取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協会の定例会等にも毎月スタッフが交替で参加し、情報交換等行い、横のつながりもできている。</p>	<p>○</p> <p>今年度より同法人で3つのグループホームとなったので、何らかの交流機会を設け、各事業がともに向上していければと思う。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>同法人やGH内での親睦会等への参加の他、GH同士の交流会にも積極的に参加し、ストレス解消を図っている。業務上の悩み等は都度協議・検討し、スタッフ間で統一を図れるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>スタッフの精神的ストレス緩和のための、専門的な支援等があればいいと思う。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフにとって働きやすい環境を整えてもらっている。資格取得に向けた支援もとってもらっている方だと思う。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時や来所時等に本人からの話をよく聞き、相手にとって“味方である”と感じていただけるような雰囲気づくりを行っている。</p>	<p>○</p> <p>認知症の状態によってもコミュニケーションの仕方が変わってくるが、まずは不安感を解消できるような関わりをもちたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者に対する家族としての思い等を聞き出せるよう親身な対応を心がけている。</p>	<p>○</p> <p>面接技術等の学習会を開き、少しずつでも技術の向上につなげていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の話をよく聞きながら、その思いや状況等把握し、必要に応じた対応が図れるようすすめている。		グループホームの中だけでは解決困難だと思われる場合、以前担当だったケアマネ等にも連絡をとりながら調整が図れるようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースバイケースであるが、何度か見学していただき、雰囲気を感じ取ってもらった上で利用していただいている方もいれば、中には母子分離等の困難ケースの場合もあり、家族や担当ケアマネと相談しながらサービス利用をすすめるケースもある。		やむを得ない状況の時はなるべく本人が安心できる親戚等にも顔を出してもらい、関係を断ち切らないようすすめている他、本人が安心できる雰囲気づくりを心がけている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習や習わし、生活の知恵などは我々よりも入居者の方のほうが断然詳しいので、色々教えてもらうようにしている。	○	教えてもらう→感謝する→自信につなげるような関わりをもつ…を常に念頭に入れておく。又、本人の哀しみや不安を敏感に感じとれるよう小さなサインを見逃さずスタッフ間で観察していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を家族に細かく伝え、家族からも情報提供していただいたり、希望等伺うようにしている。	○	家族の方々も家族としての様々な思いがあるので、その部分も理解しつつ、本人の思いもくみとってもらえるよう、時に橋渡し役になっていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の誕生日には家族を招待し、一緒にお祝いしている他、敬老会や夏祭り等の各行事にも家族をお誘いし、一緒に楽しめるよう支援している。	○	各行事にどんどん参加していただけるよう声をかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容院に行ったり、かかりつけの病院に行つて友人等と会えるよう時間を調整したりし、できる限り本人の希望に沿えるよう支援している。	○	今後も希望があれば可能な限り本人の生活習慣を尊重していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方の中には気の合う方とそうでない方もいるので、性格や個性を把握しつつ、場合によっては間に入って調整を図るようにしている。	○	スタッフだけでなく、入居者の方の中に調整役になれる方をみつけ、うまく支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で契約終了した場合でも退院後の相談に乗り、次の受け皿を探す等の協力をしている。	○	今後もできる限りの協力をしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉の真意をくみとれるよう、スタッフ間で協議し対応を図るようにしている。 言語コミュニケーションが困難な方には非言語コミュニケーションでアプローチしたり、センター方式を利用したりし把握に努めている。	○	コミュニケーションの7割は非言語コミュニケーションから得られるとの事なので、一人ひとりの思いや真意を表情、しぐさ、態度から読み取れるようスタッフ間で本人の意向に近づけるよう協議していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調時の聞き取りや、入居時、入居後と本人家族から徐々に情報を増やしており、日々の生活に役立てている。	○	プライバシーの問題もあるので、立ち入った内容の場合はある程度信頼関係ができてから聞くようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの大まかな状態像は各スタッフが把握しているが、日によって細かな変化が見られる時もあるので、小さな変化も見落とさず報告しあうようにしている。	○	出きる事、出きない事もその時々により変化するので、一度出来なかったからと、もう出来ないと決め付けず、本人の自信につながるよう対策を話し合っていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・担当ケアマネ等から情報を得て、計画作成担当者と各担当者が中心となり課題を抽出。その後スタッフ間で検討し作成している。		ケアカンファレンス等で各スタッフからの意見や気づきを出してもらい、プランに反映している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、各入居者の方の状況を話し合い、変更の必要性がある時はプランの立て直しを図っている。		ケアプランの変更の必要性時のマニュアル作成しており、現状に即した見直しを図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人々のケース記録作成、毎日のくらしの様子の記録、及び業務日誌の記録を行っており、いつでも確認できるようにしている。平成19年6月よりパソコン導入。	○	パソコンでの記録になったので、グラフや表などうまく組み合わせながら、より見やすい記録にしていき、ケアプラン等の見直しにつなげていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望にはなるべく臨機応変に対応している他、今年8月より医療連携体制加算の指定をうけられる事になり、以前よりは入居者や家族が安心できる体制が作られたと思う。	○	今後は市の許可がおりればグループホームでのデイやショートステイサービス等も前向きに検討し、地域に還元していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月、市の移動図書館に来てもらい、好みの本等選んでもらっている他、定期的なボランティアの方や個人ボランティアの方も来所していただき、入居者の方と交流していただいている。又、民生委員の方も時々顔を出してくれる。	○	近所に小さな図書館が出来たので、今度散歩がてら行ってみようと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護用品店開催による玄米ニギニギ体操等に参加したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	昨年の運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加していただいていたが、今年度より市の方で変更になり、その後はあまり協力を得られていない。	○	成年後見制度等の必要な入居者が出てきた際は、相談等行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながら個人々のかかりつけ医を受診している。また、新規で病院にかかる場合は、本人・家族に了承を得ている。		併設施設に嘱託医もおり、回診時に診てもらう事もある。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に受診の必要がある方は受診しており、相談・助言等いただきながら治療を受けられるようにしている。	○	医師や看護師が親切で、安心して受診できる。今後も受診の必要性がある利用者の方は家族と相談しながら検討していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	今年8月より看護師配置になり、入居者の健康管理や医療面でのアドバイス等の対応ができるようになった。又、併設施設にいる看護師にも急変時や特変時等に対応してもらっている。	○	看護師が配置になり、ちょっとした気になる事等も相談でき、アドバイス等もらえるようになった。今後はターミナルケア等に取り組む際も心強く感じる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	各医療機関に入院を受け入れてもらっており、必要に応じて家族・医師等と入院時や退院後の対応を話し合っている。		入院時は数日おきには顔を出すようにし、本人や看護師、家族等と情報交換するようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の説明時に大まかな話はしたが、入居者の状態に応じて、現実的にとらえられる家族とそうでない家族があり差を感じた。	○	入居者一人ひとりの状態に応じて、段階を踏んで家族と話をすすめていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の検討の必要のある方には、家族と医師を交えて話し合い、急変時はすぐ対応していただけるよう準備を行っている。	○	在宅や施設でのターミナルケアに理解をもつ医師に対応していただけるよう取り組む。又、入居者一人ひとりの終末期に関して家族とも相談していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の場所へ移り住む際、ダメージを少しでも減らすために家族に協力していただいたり、医療機関と相談したりしながら支援している。		入院時等も時々顔を出すようにし、本人や看護師、家族等に状態を確認するようにしている。又、そのまま退居される場合も、退院後の受け入れ先等、相談に乗っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	周囲に察知されたくないであろうと思われる時は、さりげない声掛けで誘導したりプライバシーに配慮している。又、個人情報の取扱いには十分注意し、外部に漏れることのないようにしている。	○ 個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止について家族アンケート等で再確認する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居されている方の中には希望の表出や自己決定がなかなか出来なかったり、遠慮してしまう方もいらっしゃるので、選択肢を掲示したり表情から読み取るなどし、自己決定の支援につなげている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の生活のリズムに配慮しながら起床や入浴時間、食事にかかる時間等について本人なりのペースで行えるよう柔軟な対応を図っている。	一人ひとりの生活ペースを大切にする…ということを念頭に置き、可能な限り本人の希望に沿えるよう予定を調整している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧品を希望される方には化粧品を準備したり、希望の美容室等があれば予定を調整して送迎等行っている。又、併設のデイサービスに近隣の理容室の方がボランティアに来ているので、そちらにお願いする方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフが一緒に準備・片づけを行っている。好き嫌いも考慮し、本人が食べられないものは代替にしたり、献立作成時に希望を聞き、メニューに取り入れたりしている。	○ 希望メニューが固定化してしまう傾向にあるので、料理本や広告等活用しながら、なるべく色々なメニューが聞き出せるよう工夫したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物等、欲しいものがあれば買物に行き、自由に買う事ができる。 又、お茶時や食事時等選択してもらう場面を設け、本人の意思が出せるよう配慮している。	その時々により好み変動する方もいらっしゃるため、スタッフ間で報告し合い、把握するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの状況に合わせて排泄チェック表を作成し、おおよその排泄パターンを把握しており、リハビリパンツ、尿とりパット等日中、夜間、外出時等に応じて使い分けている。		本人の自信の喪失にならないよう、見極めながらパット等の使用を行うようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調や希望を聞き、入浴していただいている。気の合う方が声を掛け合い、一緒に入る事もたまにある。	○	車椅子の方も入浴を楽しめるよう介護用品等そろえていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンは大体把握している。眠れない方には話をしたりお茶を飲んだりして一緒に過ごし、気持ちが安定するまでそばにしているようにしている。		一人ひとりの生活パターンがあるので、いつもと違うような時は様子観察をより深く行うようにしている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事手伝い、植木の世話等それぞれに役割を持っていただき、力を発揮してもらうようにしている。レク活動等も本人の希望に沿えるようその時々で行うようにしている。	○	心身両面で低下が見られる場合でも、小さな事でも役割、楽しみごと等みつけてあげられるよう支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方や希望される方は所持されており、買物時や外出等に自分で欲しいものを買えるよう支援している。	○	財布をどこにしまったかわからなくなる事もあるので、しまい場所のパターン等も把握しておく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「○○が買いたい」「天気良いからドライブしたい」等突然の希望にもなるべく沿えるよう時間を作って外出している。どうしてもその日に無理な時は本人に説明し、近日中に出掛けられるようにしている。	○	外出時に立ち寄る場所でも理解や協力を得られるようになってきており、お店の人に声をかけてもらったりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉旅行やお墓参り、お祭り見物等希望が聞かれれば計画を立て、家族等の協力も得ながら本人の希望に沿うよう支援している。	○	外出先の状況確認(路面状況、トイレ、浴室等)も忘れず、行ってから慌てることのないよう、あらかじめリサーチしておくようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は手紙や電話の利用をすすめている。家族の協力も得ながら、落ち着いた時や声が聞きたい時など本人と話をしてもらい安定するケースもある。	○	プライバシーの点にも配慮しつつ、かつ間違い電話のないように対応したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けておらず、外出中でない限りはいつ来ていただいても大丈夫である。またお部屋以外にもフロアのスペースでも面会可能であり、どの場所でも気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮している。		認知症の進行により、家族の顔を忘れてしまったり、別の人物と勘違いしたりする場合もあるので、そういう時はスタッフもしばらく同席し、フォローできるようにしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保等、緊急かつやむを得ない事情で何らかの拘束が行われる場合、その理由、方法、期間等を明記した記録、家族等への説明、同意書等があるが、基本的には拘束は行わないケアを目指している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はどこにも鍵はかけておらず、出入りは自由である。入居者一人ひとりの外出傾向は把握できており、入居間もない方も多少の混乱はあっても徐々に落ち着きを取り戻していくパターンが多い。		併設施設の協力等も得られており、声をかけられたり招き入られたりすると、お茶をのんで落ち着かれ、戻ってこられることもある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はなるべく見渡せる位置で見守りを行い、お部屋で過ごされている方には時々様子を見に行くようしている。夜間は2時間毎の巡視を行い、起きてきた方がわかる位置で記録等行っている。	○	現在は使用していないが、転倒しやすい状態が見られる時は部屋にセンサーマット等の使用も検討していく必要がある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管・管理方法が入居者の状態に合わなくなった場合に即対応できるよう、日頃の状態を常に把握するようにしている。	○	これまでは大丈夫であっても日によって時によって状態が変化することを念頭におき、見守り、観察をスタッフ間で行い、事故防止に努めたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設施設と合同でリスクマネジメント委員会を設け、事故報告書、ヒヤリハット等の各事業所の傾向を探り、マニュアル等作成している。	○	今後は行方不明時等の対応も検討していく方向で話をすすめていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個人的な学習と定期的な勉強会を実施したり、夜勤時の緊急対応マニュアルを目に付くところに掲示しており、いざというときに冷静に対処できるようにしている。	○	定例会等で救急法の講習を受けているので、職場で学習会を開催する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で災害応急対策のマニュアル作成しており、地域の人々の協力も得られている。	○	防火管理者の資格取得も徐々に増やしていきたい。避難訓練(地震時の)実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、面会時等、ご家族には必要に応じて説明し話し合っており、ご家族のほとんどは本人を尊重した意見をもっておられるようである。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックの他、日中、夜間の状態の変化を見逃さないようスタッフ一人ひとりが注意を怠らないよう努めている。又、記録に残し全員が把握出来るようにしている。		身体面の状態だけでなく精神状態によっても体調に変化が生じることがあるので、その原因等も把握できるよう日頃からスタッフ間で申し送るようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬状況一覧表作成し、スタッフ一人ひとりが把握できるようにしている。又、薬が変わった場合は、特に観察を慎重に行い、変化が見られた際は早急に医師と連絡をとるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を使用する前に身体を動かしたり、食物繊維をとったりし調整している。下剤を使用する場合も個々の状態に合わせた使用量、頻度となっている。	○	看護師も配置されたので、アドバイスをもらいながら便秘予防に努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後、夕食後の口腔ケアを個別に支援し、口腔内の清潔保持に努めている。口中や義歯にトラブルが生じた場合は早急に歯科受診している。		認知症の進行により、その時々状態によってはうまく口が開けられなかったり、うがいが出来ない事もあるが、毎日継続していくことで成功する場合が増えてきたケースもあるので、今後も根気良く続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事量を記録して他のスタッフが確認できるようにしている。食欲低下時等は、本人のその時の好みに応じて摂取できるものを提供するようになっている。</p>	<p>栄養面等では併設の特養の栄養士にアドバイスをもらい、献立に役立っている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関するマニュアルがあり、それに基づき予防や対応がなされている。又、インフルエンザの予防接種も入居者・職員とも全員毎年行っている。</p>	<p>定例会等で感染症対策の講師を招き、それを聞いてきたスタッフが後日報告を行うなどしている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>特に食品に関わる物品に関しては、清潔の保持に努めており、手洗いの励行、消毒等を行うようになっている。食材は鮮度や状態確認し、使い切ったり処分したりしている。</p>	<p>再確認の意味で、職員会議等で食中毒に関する注意等促している。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関まわり、建物の周囲等、家庭的な雰囲気を出すよう工夫をしている。 入口にベンチを置いたり、玄関に花や植物・作品等をおいて明るい雰囲気になっている。</p>	<p>○ 家族アンケートや運営推進会議等でも客観的な意見を聞いてみたい。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節毎に装飾品を変え、視覚で四季を感じとっていただいたり、台所の音、におい、好きな音楽等聴覚、嗅覚等にも訴えかけられよう工夫している。</p>	<p>○ 季節の花を飾る、写真を飾る、作った作品(本人やご家族)を飾るなどして楽しんでいただいている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>スタッフから死角になるスペースを確保し「常に見られている」という感を与えないように配慮している。</p>	<p>フロアには長椅子やテーブル、廊下にはソファを設置し気の合う仲間が集える場をつくっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み物品については個々人に差があるが、本人や家族の協力を得て、その人らしい部屋づくりの工夫をしている。		今後は消防法との兼ね合いも考慮しながら持ち込み物品等検討の必要あり。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・温度調整は適宜行っており、一人ひとりの居室や共有空間等の室温管理を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居されている方の状態に応じて、トイレ・浴室等に手すりを追加してきた。9名それぞれにADLのレベルも異なるので、設置の際に見極めが難しい事もある。		入居者の現在の状態に応じて環境の改善に取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ADL状況も一人ひとり異なるので、その日の状態等も見極めながら混乱や失敗のないよう配慮している。		その時々に応じて同じケースで成功するとも限らないので、スタッフ間でその日のその方の様子を把握しあい、一人ひとりが大きく混乱することのないように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りで散歩や日向ぼっこをしたり、ベランダではプランターで植物や花を植え世話をしてもらったり、洗濯物干しをしてもらったりしている。		今年は勝手口にもプランターを置き、きゅうりや朝顔などを植え、入居者の方々も日々の変化に気付いたり、それぞれ楽しめていたようなので、今後も継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)